

『今すべき事は』

高等部副校長 安藤智彩保



新型コロナウイルスの感染拡大の嵐がいまだおさまりません。誰もが日々、感染の危険に緊張している状況です。社会全体が「これからどうなるのか」という不安を持っているように思われます。人類の歴史の中で、社会が大きな困難に直面し行き詰まり感におおわれたことは何度もありました。ヨーロッパでのペストの流行、江戸時代の天明の大飢饉、20世紀に入ってからも世界恐慌、第二次世界大戦など人類は多くの困難をくぐり抜けてきました。どんなに困難な状況の中でも、人々は目の前の生活を守るために行動し、社会は動き続けてきました。生活を守り社会を維持しようとする行動の中で、困難は克服され、時に科学や文化は新たな発展をしてきたのです。

「こんな状況で何をしたいかわからない」「進路だってどうなるのか」という不安があるかもしれません。こういう時期だからこそ「今日の前にあること」「今自分ができること」を確実にやっていくことが大事なのではないでしょうか。生徒たちは厳しい状況の中でも日々努力し、作業学習などを通してすばらしい製品を生み出しています。本校の生徒たちがめざすべき進路は、日々行っている学習活動を確実にこなしていった先に必ずつながっていると考えております。私たち職員もそのために全力で支援を行っていきます。保護者の皆様、関係機関の皆様、地域の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

中学部 インターシップ

7月15日(木)、中学部3年生を対象に、ひかみの園でインターンシップを実施しました。生徒は、初めての場所で戸惑っていましたが、慣れてくると、利用している方が集まっているところに自ら近付き、余暇活動でカラオケをしている様子を笑顔で見えていました。

余暇活動の様子を見た後は、施設内を見学しました。パズルや塗り絵、折り紙等、一人一人に活動が用意してあり、楽しそうにのびのびと活動している様子が分かりました。生徒も塗り絵の体験を行い、好きな色を選んだり、引率の職員と一緒にマーカーを握って色を塗ったりし、落ち着いて活動に取り組むことができました。

コロナ禍の中、インターンシップを受け入れてくださり、貴重な体験をさせていただきました。

高等部2年 進路見学会

7月16日(金)、高等部2学年で進路見学会に行ってきました。行き先はさいとう製菓株式会社、NOWBELBE「海の碧」、@かたつむりの3カ所を見学しました。

見学する前に事前学習で各事業所の概要を学び、質問項目を検討することで、自分で学び考えることを目指しました。今回は、一般企業、就労継続支援A型、就労継続支援B型と、3つの異なる事業所を見学することで、自分の将来就きたい仕事を、少しずつイメージすることができたのではないかと思います。

今後、後期実習を経て来年の高等部最終学年へと進み、卒業後の進路選択を最適なものにするためのワンステップとして、とても有意義な見学となりました。



PTA 進路研修会

7月21日(金)、三陸ラボラトリ株式会社専務取締役佐々木和也氏を講師にPTA 進路研修会が行われました。20名の保護者の方が参加しました。

●四つ目商事株式会社、株式会社三陸ラボラトリについて

四つ目商事は、花巻に本社があり、貨物運輸や水産物の卸売りなどを行っている会社です。三陸ラボラトリ株式会社は、四つ目商事が2020年12月、三陸町に立ち上げた会社です。



●SDG s とは

「Sustainable Development Goals」の略で「持続可能な開発目標」のことです。「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標として、国連総会で決められ、2030年までの達成を目指しています。

●本社の事業とSDG s

四つ目商事株式会社/株式会社三陸ラボラトリ、盛岡水産株式会社、株式会社ヘラルボニーの三社が共同し持続可能な水産業の未来を見据えた「いわて水産持続化共同体」を発足しました。岩手の水産業と福祉の課題を包括的に解決していくための活動で、SDG s 推進の活動にもなっています。この事業の第一段、「むきホヤプロジェクト」は、本社が中心となり立ち上げた事業です。商品価値の高い250グラム以上のホヤを取るために、小ぶりのホヤは廃棄されていました。廃棄対象になっていた小ぶりのホヤを仕入れ、食べやすいようにむき身にして加工し、流通しやすい形にパッケージ化し販売する事業です。むきホヤのMDシールには株式会社「ヘラルボニー」(※1)の協力で、知的障害者のアート作品を起用しました。



●就労支援につながったホヤの加工事業

加工事業は当初、身内4人でスタートしていましたが、製造に人手が必要になったとき知人に相談したところ、就労支援B型事業所の就労施設として利用してもらえることになりました。気仙光陵支援学校の生徒も現場実習に来ています。就労する環境は作ることができますが、就労するためには、挨拶・返事ができること。コミュニケーション、「分からないことは分からない」と伝えられることが求められると思います。

気仙圏域ネットワーク会議

8月3日(火)シーパル大船渡を会場に、気仙地区の行政・福祉事業所・本校を含む県内の支援学校等関係者が集まり、気仙圏域ネットワーク会議を開催しました。感染対策をし、人数も制限したなかで実施しました。

会議では、高等部に在籍している気仙地区出身の生徒の進路、各事業所の状況について情報交換を行いました。本校の生徒の進路希望状況や福祉事業所の事業内容と施設の状況が話題に出され、それぞれの様子を知る貴重な機会となりました。

就労支援セミナー

8月27日(金)、本校の会議室を会場に岩手労働局主催の「就労支援セミナー」が開催され、高等部3年生6名が熱心に受講しました。特に印象的だった内容を紹介します。

〈民間企業側が特別支援学校の生徒を採用する場合、
特に重要視する上位6項目〉

- ① 挨拶や返事がしっかりできる
- ② 規則やルールが守れる
- ③ 身の回りのことが一人でできる
- ④ 人の話を素直に聞ける
- ⑤ 連絡や報告がしっかりできる
- ⑥ 作業力や持続力がある

※1 株式会社ヘラルボニーは、盛岡に本社があり、障がい者のアート作品の商品化などを手掛けている会社です。全国の社会福祉法人やアーティストと契約を結び、作品のデータを保有しています。展示や商品に作品を使用した場合は、アーティストとのライセンス契約に基づき、福祉施設やアーティストに規定料を支払っています。老舗メーカーと連携しており質の高い品質の商品を販売しています。ショップは川徳百貨店内にあります。

※2 むきホヤのパッケージに貼ってあるMDシール。釜石出身のアーティスト小林覚さんの作品を使用しました。

施設紹介

今回は、今年5月に大船渡市に開所した特定非営利活動法人 NOWBELBE 多機能型事業所「海の碧」を紹介します。「海の碧」では、昨年度の卒業生二人が働いています。事業所について、二人の様子を含めて、サービス管理責任者の小室忍さんにうかがいました

《海の碧》

【運営】特定非営利活動法人 NOWBELBE

住所：大船渡市赤崎町諏訪前 42-26

リバーサイド諏訪前 B 棟

TEL：0192-22-7943

【事業形態と定員】

○就労継続支援 A 型事業所「海の碧」（定員 10 名）

【作業内容】

◎チョコレート製造にかかる業務

- ・カカオ豆の選別、カカオ豆ロースト、カカオニブチェック（異物の除去作業）

○農作業 ※畑は陸前高田市竹駒町にあります。

- ・九条ネギ栽培にかかる作業

【勤務時間】

○月～金曜日（5 日間） 10 時～17 時（6 時間）

【商品の紹介】

オーガニックチョコレート

（カカオ 77%、88%、黒糖、ピスタチオ、ソルトニブ）

カカオニブ（チョコレートの原材料のカカオを焼いて砕き、皮や胚芽を取り除いたもの。お菓子感覚で食べられます）

※ 商品は陸前高田発酵パーク CAMOCY にある「カカオブローマ」で販売しています。



1 階が放課後等デイサービス「空の青」
2 階が A 型事業所「海の碧」



「海の碧」では、昨年度の卒業生は、菅野康剛さん、中山裕太さん（令和 3 年 5 月入社）の 2 名が働いています。

☆仕事内容：主にカカオニブチェック

（ピンセットを使用して、異物の除去を行います）

☆通勤方法：事業所の送迎サービスを利用しています

☆勤務時間：10 時～17 時（12 時～13 時は昼休憩）
6 時間勤務、週 5 日間



『菅野さん、中山さんのご様子』

○5 月に入社されてからこの 9 月で 4 ヶ月を迎えます。事業所の主力作業であるチョコレート製造業務の一つ、「カカオニブチェック」の作業を中心に取り組んでいます。カカオニブとは、カカオ豆をロースト（オーブンで焼いたもの）して機械で皮をむき細かく砕いた状態



のもので、チョコレートの材料になります。砕いたばかりのニブには、異物（残った皮や胚芽など）が混じっているため、それをトレーの上でピンセットを使い取り除く作業を行います。非常に細かな作業ですが菅野さんも中山さんも、高等部在学時の実習の経験もあり、集中を維持しながら精度の高い仕事をしていただいています（仕事風景は添付写真参照）。

○社会人としてスタートした 5 月からみますと、お二人とも体調も良好で元気に仕事や休日の余暇を過ごされています。菅野さんや中山さんが事業所では最年少になりますが、他の仕事仲間とも良好な関係を築いておりまですし、休憩時には和やかに仲間と談笑する様子も見られます。仕事の内容が細かく集中力が必要な作業ではありますが、経験を重ねるごとに、自分のペースを確立し且つ作業技術も向上しています。より質の高いニブに仕上げようとする姿にとっても頼もしく「職人」を感じさせます。